

2023年度CVV総会資料

◇2022年度 活動報告

1. 総会の開催

2022年度総会を5月11日に開催した。

2. 定例会の開催

概ね2か月ごとに定例会を開催し、活動方針や実施内容を協議しており今年度は6回開催した。

3. 具体的な活動および今後の活動に向けた調査、検討

① 関係機関との協議

土木学会成熟シビル活性化小委員会の澁谷幹事長からの依頼で、同小委員会とCVVとの関係構築を目指して打合せを実施した。

② いきいき活動（学童保育）への支援

昨年度より実施している「いきいき活動（大阪市内小学校での学童保育）」への支援に関して、2022年度の開催に向けて実施校3校の運営指導員の方々と打合せを行い、割り箸を使ったトラス橋づくりを夏休み・冬休みに実施した。

③ 「技術継承」に関する検討

CVV活動の柱の一つである若手技術者、学生への「技術継承」の在り方の検討を進め、メンバーの経験記「CVVな男たち・女たち」を紹介するパンフレットを作成した。また、若手技術者の本音収集に向け、「橋の魅力発信プロジェクト」原口氏に講演頂くとともに土木学会関西支部シビルアカデミーと意見交換した。

さらに、従前より協力関係にある地盤工学会関西支部「若手セミナー」に講師派遣し、また担当幹事団の方々と関係強化策について打合せを実施した。

④ 土木学会全国大会での土木遺産映像上映会

2022年度京都で実施の土木学会全国大会において、CVVが中心となり関西地区の土木遺産の映像資料の上映会を企画し、会場の京都国際会館で映像上映会を開催した。

⑤ 土木遺産を活用した市民見学会の検討

表記については過年度より検討しており、今年度は専門家の前畑温子氏（産業遺産探検家兼写真家・NPO法人J-heritage 戦略企画室室長）を招き意見交換した。また、前畑氏から得た情報で6月18日開催された湊川隧道の一般公開行事に参加するとともに、12月13日に和田岬砲台、和田岬旋回橋、兵庫運河、および湊川隧道の調査を実施した。

⑥ CVVメンバーによる土木施設の調査

過年度より開催している大和川に架かる橋梁調査を実施した。また、神戸市内の土木遺産の調査を初めて実施した。

⑦ 自治体支援

過年度より支援している神戸市の「土木の学校」の運営委員会に出席するとともに橋梁模型コンテストに審査委員として協力した。

⑧ 舞鶴高専の産学共同インフラメンテナンス人材育成システム（KOSEN-REIM）への協力

舞鶴高専の担当者から実務家教員育成研修プログラム受講者募集案内の説明、REIM産学連携コンソーシアムへの協力依頼があり、協力の可能性について検討した。

⑨ 建設関係用語辞典編纂の検討

死語・廃語・古語・瀕死語となっている建設関係の用語辞典作成の提案があり、作成意義などにつき意見交換した。

◇2022年度 決算報告（監査報告を含む）：別紙参照

◇2023年度 役員案

代表：古田 均

監事：南莊 淳、齋木亮一

幹事長：川谷充郎

幹事（順不同）

会計：石原靖弘、高田嘉秀

名簿：古川博一

ホームページ：田中 洋、森 俊彦、祝 賢治、黒山泰弘

橋梁調査：野坂俊雄、武 伸明

土木遺産調査：南莊 淳、清水文夫、栗田秀明、今岡亮司

見学会企画：祝 賢治、先本 勉、宇野宏司

技術継承：夏秋義広、吉岡正道、友廣康二、石原靖弘、下土居 秀樹

学童支援：鈴木 厳、石原靖弘、祝 賢治

自治体支援：夏秋義広、黒山泰弘

事務長：黒山泰弘

◇2023年度 事業計画案

1. 総会、定例会、ワークショップ等の開催
2. 「浪速の名橋50選」を活用した見学会、研修会の実施
3. 「大阪の橋 追補名橋」調査の継続実施
4. 土木学会関西支部管内の土木遺産の調査継続
5. 自治体支援等の継続的な実施
6. 技術継承に向けた取り組み（小中学校、大学・高専・高校、若手技術者）
7. 活動内容の充実に向けた他団体との交流促進ならびに活動広報
8. その他

◇2023年度 予算案

収入の部

項目	金額（円）	備考
前年度繰越	93,342	
会費	38,000	38人*1,000円
助成金	300,000	土木学会関西支部より
その他	10,000	会員からの寄付等
計	441,342	

支出の部

項目	金額（円）	備考
交通費	250,000	現地調査等
会場費	10,000	市民、学生見学会等
印刷費	50,000	資料印刷、冊子印刷製本等
賃貸料	16,000	サーバー、貸ロッカー利用料
食糧費	10,000	学生見学会での補助等
雑費	10,000	消耗品、支払手数料等
予備費	95,342	次年度繰越予定
計	441,342	